

マネージメント情報

2011年7月



Total Herd Management Service

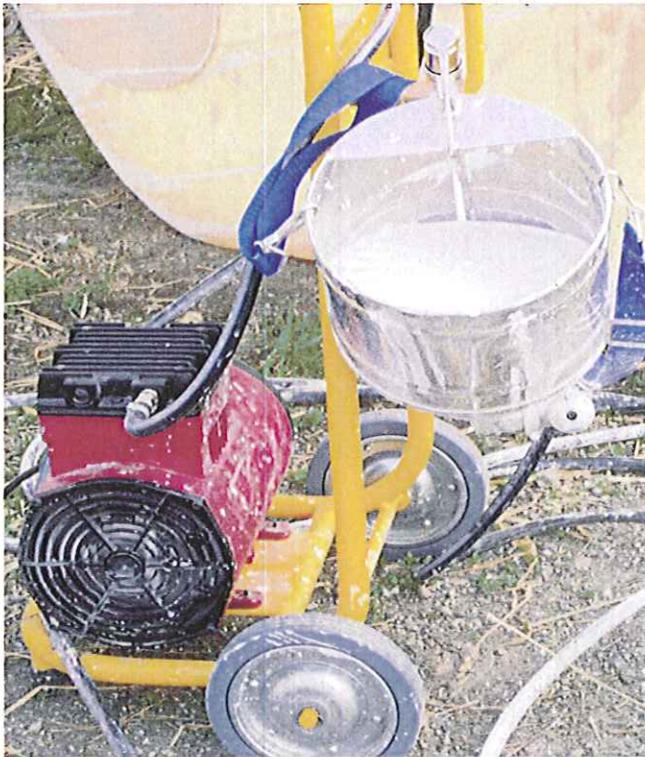
この記事は、機関誌や日常の出来事の中からわれわれが注目した話題を皆様に提供するものです。
ご質問、ご要望などなんでもお寄せくだされば、今後テーマとして取り上げたいと思います。

マネジメント情報 2011年 7月

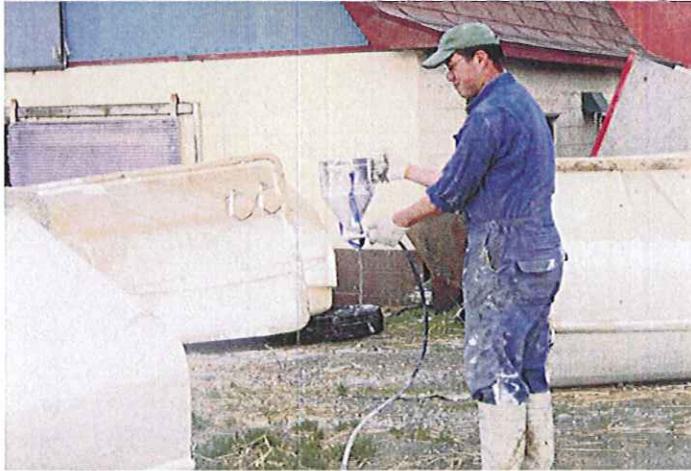
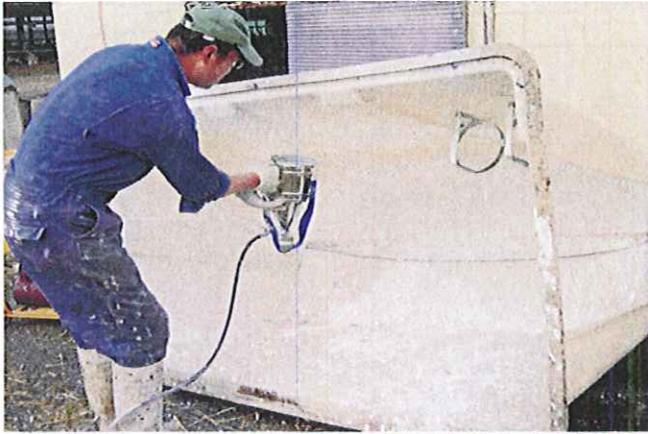
1) 阿部獣医師の退職記念講演会・壮行会

去る7月16日、中標津町寿宴にて阿部獣医師の退職記念講演会と壮行会が行われました。おかげをもちまして100名以上の出席者のなか、収穫作業のなかでも多くの酪農家方たちの参加を得て盛大に行われました。阿部君の退職記念講演は、THMSで実践したことを振り返りながら、ユーモアを交えてのナイスな講演でした。参加者の評判も上々でした。壮行会のほうも随分と盛り上がり無事終了いたしました。お礼を申し上げます。壮行会の席では普段あまり顔を合わさない酪農家の方ともお話ができて、非常にうれしかったのですが、OさんをYさんと勝手に思い込んで話してしまいました。Oさん本当にごめんなさい。

2) 気軽に便利な超小型消石灰噴霧機



超小型石灰塗布器



いつでも気軽に石灰塗布

3) 鬼軍曹の新人教育も佳境へ



鬼軍曹の指導にビビリながらの住谷君。覗いてみるとすでに死んでる蹄から鮮血がぼたぼた流れていました。「へー、死んだ牛の蹄からもそんな鮮血がでるんだー」私が感心していると「すみません・・・。それ自分の血です・・・。」と住谷君。見ると住谷君の腕から鮮血がぼたぼた流れていました。ぴくとも動かない蹄相手に、なんで〇〇〇・・・。

黒崎

マネージメント情報

※ アメリカ・カナダ研修報告 Vol.2

< 6/2...アルバータ大学 >

6/1にウイスコンシンからカナダのエドモントンに移動。アルバータ大学にはみなさん乳牛の栄養でお馴染みの大場先生がホテルで合流。大場先生は10代の頃中春別の高橋真悟さんのお母さんの実家の農場で実習の経験があり、この経験が現在の仕事をするようになったきっかけだったとの事です。

大場先生は今年の9月から一年間酪農学園大学に逆留学の形で仕事をされる事になっていますので、身近にいろいろな形で情報を提供していただけたと思います。

大場先生は一週間前にカナダ政府の仕事(カノーラミールの売り込み)で中国から帰ってきたばかりで、穀物輸出国は日本ではなく中国をターゲットにしている現実をあらためて実感しました。

6/2にアルバータ大学でDr. Collazo Marcosに定時授精のプロトコルを中心に講義を受けました。アルバータ大学の付属農場では全ての授精は定時授精を行っているということでした。定期的に妊娠鑑定を行っていますが、その間に自然発情があっても無視して、次回の妊娠鑑定の時に定時授精のプロトコルにしたがって処置を始めます。理由は仕事の簡略化で、曜日毎に仕事を決めていて繁殖管理も同じだということです。付属農場は100頭ほどの規模でしたが、この頭数でも繁殖管理は機械的に行われていました。

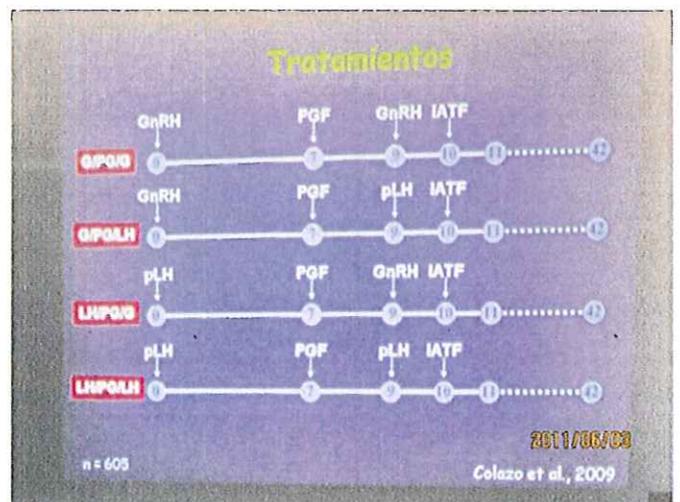


スライドはスペイン語ですが、曜日ごとの処置ということはわかると思います。

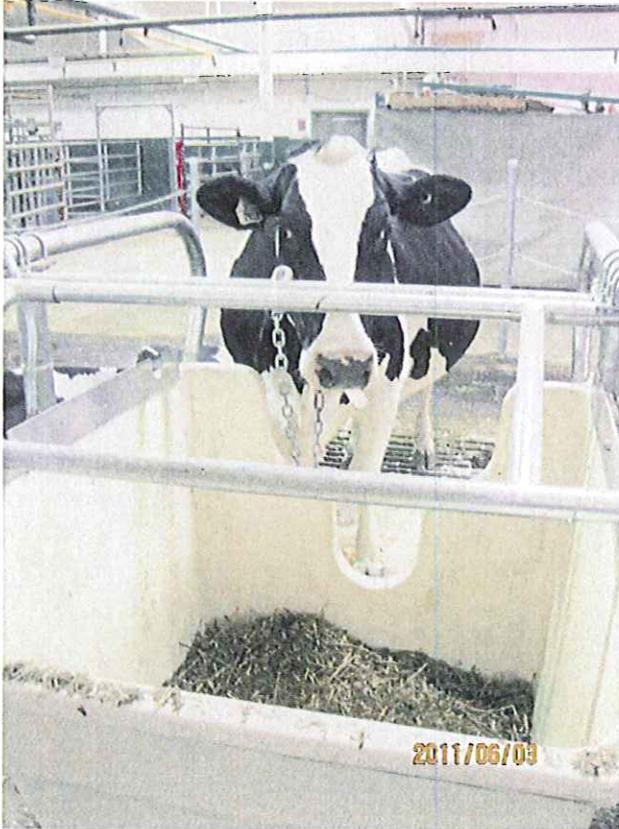
受精卵の採卵でも定時採卵(4週間間隔)という方法があり、現在2頭の牛で行っています。賛否はあるでしょうがこれからの繁殖管理は自然発情を発見するということではなく、このように定時授精で機械的に行われるようになっていくのかもしれない。

それ程発情発見が難しくなっているのか？
製薬会社の戦略なのか？

でも、曜日で仕事が決まるということは人手の少ない現実を考えると一つの方法であることは間違い無いと思います。



アルバータ大学附属農場の写真です。
様々な試験が行われているのですが、一頭一頭毎に正確に乾物摂取量が管理できるようになっていました。



※500,000km超えました

私の愛車ランクル 80 が 7/1 にとうとう
500,000km に到達しました。
平成7年 8 月から乗り始めて苦節?16 年
本当によく頑張ってくれました。
その間、鹿との衝突と側溝に飛び込んだ
事が一度ずつありましたが、それでも
大事に至らずに現在 8 回目の車検をと
っているところです。
佐竹さんにこの話をしたら得意のどや顔
で「とっくに超えていますよ!!!」とのこと。
いつの間にか先を越されていました。
これから二人で 600,000km 越えを目指
します。

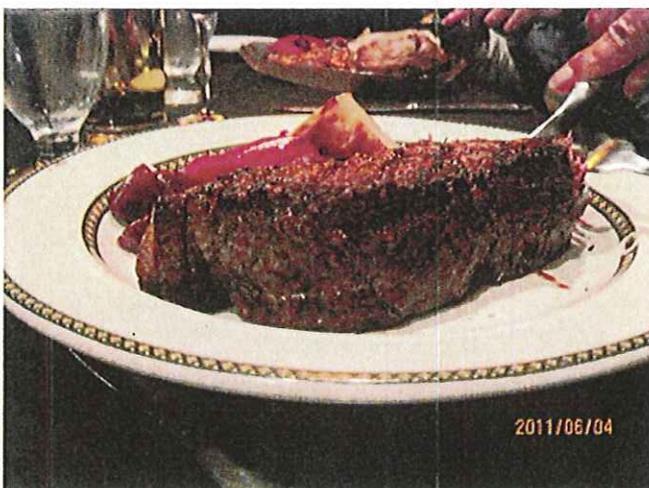


.....

・阿部獣医師の「NOSAI→畜大→THMS→そして壱岐へ」と題しての退職記念講演会・壮行会が7/16に中標津の寿宴で盛大に行われました。お忙しい中当日は100人を超える関係者の方々にお集まりいただきました。お忙しい中本当にありがとうございました。そして平成8年から15年間本当におつかれさまでした。



※カナディアンアンガスステーキ



カナダ人はカナダのステーキが世界で一番美味しいと良く言います。アメリカのステーキとの違いが今回わかりました。アメリカの肉牛はコーンで肥育され、カナダの肉牛は大麦で肥育されます。そのためにカナダの肉牛の脂肪は白く、アメリカの肉牛の脂肪は黄色くなるという事です。味の差は引き分けということですね……。

まず、皆様にとって大変忙しい時期に、私事でお騒がせして申し訳なく思います。16日には私のような小者にもったいない講演会・壮行会を催して頂き、多数のご来場を賜り、妻共々感激しました。その他多くの暖かいお心使いを本当にありがとうございます。

さてここでは、思い出を綴る様に自慢話をしたのでは嫌味になるので、あえて、私が当社に貢献したのではないかと自負できる事項を述べます。

年賀状を作った(大体初笑い系であり、「ふざけている」と不評も買った)。

人事に尽くした。

佐竹さんを選んだ。

事務職員の採用試験問題(特に適性)を作った。

田中さん 岡田さんを選んだ(大内さんは社長の的中)。

西越さんがピンチの時、諦めずに頑張ろうと鼓舞した。

酪農学園の新付属病院落成式後の講演に呼ばれ、蹄病を中心とした乳牛の臨床について喋った際に、富岡君の我が社への興味を引いた。

1年足踏みした菅原さんの採用を佐竹さんと富岡さんとで決めた(その後…)。

帯広畜産大学に出向いて講義と会社案内、および懇親会をセットし、住谷君の獲得を裏から仕組んだ。

『ころさく』を作った。腰の負担はきっと少ない。後輩たちの健康に寄与できるであろう。また、農場が行う個体管理に寄与できると自負する。

第四胃変位を主とした一般的な開腹手術を起立位で行い、背中の麻酔(腰椎間後方硬膜外麻酔)を取り入れた。現場で行える手術はほぼ可能である。

同じく手術時、ドレープの貼り付け法と、第四胃ガスの吸引法を考案した。

そういえば、手術時の保定について、杵場やマセン棒で牛を押さえつけないで行うゆるい保定に関しては、山下さんに習った。

死蹄を使っての削蹄および蹄病治療方法の教育法に尽力した。

死蹄の保定法を考案し(「蹄王」および「蹄王II」)、酪農学園の実習に取り入れられた。

なお、削蹄方法の教育内容については、2005年にオランダの職業訓練学校であるPTC+に出向させていただき、ピーター・クルースターマン先生じきじきに教わる事が出来たのは非常に大きい出来事であった。

当社に居たお陰でたくさんの、優秀で著名で素晴らしい方々に巡り合う事が出来た。

そのようなビッグでグレートな方々のほとんどは、黒崎先生と山下先生(陰に鈴木先生 鷺山さんなどの著名で素晴らしい先生方が介在された)が引っ張ってきた方々だった。そのような交流が今後も続くように願う。

安富先生、濱田先生などのニュージェネレーションの先駆者である佐竹先生の活躍は、世界の頂点との交流を持続することでもある。

当社当地での交流を思うと、他の診療所に比較して様々な実習研修生が訪れている(宿帳と称して、滞在記録を付け始めたのは私の考案だった)。

多くは黒崎先生と繁殖およびコンサルテーションの実際を見に来ることである。そこで、私は、「繁殖・コンサルを勉強しに着たら、臨床も優れていた」＝「黒崎先生に会いに来たら他にも良いのが居た」と言ってもらえるような印象を与えるような臨床のスタンダードを、特に蹄病と乳頭および開腹手術、アイスタットの導入などで行った。

そもそも畜大から移るときにやりたかったことが3つあった。
車のカラーリング(これは黒崎先生がやっていたことに驚き、共鳴した)。

牛の吊り上げ器(吊起帯)と、投薬器の普及。吊起帯は、当社関係農場ほぼ全戸に普及した。

長靴・作業着を農場に置くというバイオセキュリティ。これは、今後日本の牛診療スタイルのスタンダードになって欲しいと願う。

さて、次いで壱岐へ行くわけだが、思えば普段から、空いている店に私が入ると、不思議とお客が後から後から入ってくる。今回の転職時も、私の希望の後に問い合わせが矢継ぎ早に来てしまったので、結局入社試験が行われ、8月1日採用の急展開となった。

壱岐島は福岡・佐賀・長崎の3県がほぼ同距離で望めるが、佐賀には玄海原子力発電所が存在し、30km 圏内になる。

壱岐から福岡までフェリーで1又は2時間、その後1時間で母の元に辿り着ける。今後はもう少し訪問する機会が出来る。

壱岐で最も高い場所に黒崎砲台というものがあり、毎日見上げることになる(壱岐に行ってもクロサキ様の下で働くことになるのです)。

以上、良かった側面から書いてみましたが、反面ダメだったことは何ページ書いても足りないほどです。ご容赦頂いている皆様と会社の皆に感謝するばかりです。

平成8年1月から15年間 ありがとうございました。

今後とも皆様の農場を当社がサポートする良い関係であり続け、両者が発展されることを心から願います。

最後の最後にもう一ネタ:

ある農場の従業員さんに本をプレゼントしました。

多くの日本人の従業員さんたちに日常を聞いてみると、

ただ仕事して ただ寝るだけ たまにパチンコの方が 実に多い。

そこで、せつかく時間があるのなら、「本を読もう」と勧めたいのです。今回私が選んだのは「ポプラポケット文庫 日本の名作」シリーズからの6冊です。

将来、別海の思い出になるかもしれないし、本を読む習慣が定着すれば幸いですから。



農場内限定使用を条件に
阿部車(平2サファリ41万5千km)
をお譲りします。
THMSにお電話下さい。
応募多数の場合抽選。

6月26日におこなわれた「サロマ湖100kmウルトラマラソン」に出場しました。お陰さまで今年も無事(?)完走することができました。記録は約11時間で昨年よりも45分ほど短縮できました(⇒苦しむ時間が少し減りました)。

多くのひとから「なんでそのような愚かなことをするのか?」という素朴な質問をいただきます。

5年前、マラソンに興味もなかった私がそもそも走り始めた理由は「ビールを今以上に美味しく飲むことはできないのか!?’という“純粹なる科学的探究心”からでした。ただしビールがおいしく飲めるのは42kmまで・・・100km走った後に飲むと死ぬほど後悔することはその後わかりました。



“左から寅次郎、私、史、鬼嫁、福、正吉”

ソフトバンク孫正義社長の言葉

“ 近くを見ているから船酔いするのです。

100km先を見ていると景色は絶対にブレない。”

それでもやっぱり100kmを走りたいと思うのは

・鬼のような体力をつけたいなあ

高度な技術力や知識も必要かもしれませんが、現場で仕事するうえで最後にものをいうのがやはり「体力」であることを何度も経験しています。

・心をもっと強くなったらいいなあ

仕事には挫折や失敗がつきもの。それでもめげずにやり続けるには「折れないところ」が無くてはと思っています。特に私はひとよりもところが折れやすいので・・・。

今回も凄まじく苦しくて辛い100kmでしたが、やはりゴールの瞬間の“あの感覚”は何ものにも代えがたいものがあります。



今年は、5月末から畑で野菜と花を育てています。
事務所の芝生の一部を畑に使わせていただいています。



↑一番小さいハウスを建てました



↑きゅうり好きな岡田さん



↑落花生の芽



↑少し大きくなった落花生

豆類の成長がとても楽しみです。芽が出て、本葉が出て、ツルが伸びていく様子がおもしろいです。

じゃが芋(メークイン)は、住谷くんが持っていた食用の芋が干からびて、既に芽が出ていたものを種芋として、佐竹さん、私、住谷くん其々1列ずつ植えました。最初に芽が出てきたのは、もちろん佐竹さんの列です。次に私、最後に住谷くんの列も芽が出ました。今では、3列とも立派に成長していますが、花が最初に咲いたのも佐竹さんの列でした。さすが佐竹さん☆

畑のことを教えてくださる方から、レタス、イチゴ、キャベツ、ゴーヤ、葱、蕪の苗もいただきました。ありがとうございます。

新鮮な野菜を食べて、健康な毎日を過ごしたいと思っています。



ピンクアイ

THMS 住谷 峻

ピンクアイという病気は *Moraxella bovis* という細菌に感染することによって起きる目の病気です。感染初期では涙が出たり、目が充血したりというのが特徴ですが、病気が進行すると目に赤い肉芽を形成し、重度になると失明してしまう病気です。この病気によって死亡する例は少ないですが、乳量低下などの経済的損失が大きいいため早期に発見・治療をすることが望ましい疾病です。



初期症状 流涙、結膜（白目）の充血と腫れ、角膜（黒目）の白濁が認められる

《診断》

この病気の変化は目に集中しておきるため、眼の状態を観察することで診断ができます。発病初期の特徴は、著明な流涙や目の腫れ、黒目部分が白く濁る事などです。なので、最近・涙を流すことが多い・目が腫れている等の事が気になったらすぐに獣医師に連絡し、検査をすることが早期の発見につながります。

《治療》

この細菌には、ペニシリン・ゲンタマイシン・テトラサイクリン・クロラムフェニコール類の抗生物質が効果があるので、これらの抗生物質による点眼を行うことにより治療が可能です。テトラサイクリン系の抗生物質の筋肉内注射も効果があります。



治療例 抗生物質を溶かした点眼液を入れたスプレーを使用

この菌は、ハエなどの昆虫が媒介して感染します。これからの季節そのような病因昆虫が増えるため、感染が増加することが考えられます。皆様注意して牛を観察してあげて下さります様、お願い申し上げます m(_ _)m



北海道酪農技術セミナー2011

2011年11月3日(木)~4日(金)

新富良野プリンスホテル 北海道富良野市中御料

セミナーの趣旨：

酪農現場で活躍されているコンサルタント、大学、研究機関、メーカーで研究している技術者から、現場で役立つ最新酪農技術を幅広く学ぶとともに、いろいろな人達と自由に意見交換できる北米タイプのセミナーです。酪農家、普及員、団体職員、獣医師、メーカー、営業の方など酪農に関わる方すべてが対象で、誰でも参加していただけます。

会場へのアクセス：

JR利用の場合：JR 富良野駅から車で10分

車利用の場合：札幌から＝道央自動車道三笠IC下車、道道美唄富良野線経由で114Km、
旭川から＝国道237号線で60Km、帯広から＝国道38号線で116Km

飛行機の場合：旭川空港から富良野プリンスホテル行きバス(ラベンダー号)

参加費用、お支払方法：

9月末までに申し込みいただいた方は1人¥15,000、それ以降は¥20,000で、当日会場にて現金でお支払いいただきます。参加費には講習料、講演要旨1冊のほか1日目の夜のレセプション費用(食事と飲み物)、2日目の昼食、セミナー中の飲み物代が含まれます。

参加申し込み：

氏名、所属、住所、電話番号、ファックス番号、メールアドレスを明記して、下記にメール、またはファックスしてください。

ファックス番号：0155-60-2112、メールアドレス：Takenaka@company.email.ne.jp

宿泊申し込み：

宿泊は新富良野プリンスホテルに直接お申し込みください。その際、北海道酪農技術セミナーに参加することを伝えてください。特別料金で宿泊できます。すべてツインルームになりますが、シングルユースでも価格は同じです。前後泊も同じ料金でお泊りいただけます。

1人1泊朝食付き¥ 8,400(税込み) 宿泊予約は0167-22-1111へ

企業協賛のお願い：

セミナー参加者の負担をできるだけ少なくするため、1口5万円でスポンサーとなっていただけ企業を募集します。スポンサー企業には講演要旨に広告(A4の1/2サイズ)を掲載し、1名分の参加費(レセプション、昼食代を含む)を無償とします。また、会場の外に展示ブースを設けますので、出展企業を募集します(10ブース程度)。1ブース(幅2m程度の机と椅子2脚)¥10万円で、ブース担当2名分の参加費を無償とします。また、宣伝物品(ペン、ノート、袋など)などの配布も受け付けますので、希望がありましたらお知らせください。出展希望は早めにお申し込みください。

セミナー、企業協賛に関するお問い合わせは、北海道酪農技術セミナー事務局、武中まで

携帯:090-6873-0097、FAX:0155-60-2112、メール：Takenaka@company.email.ne.jp

北海道酪農技術セミナー2011 プログラム

11月03日

プレコンファレンスワークショップ（メーカーからの最新技術の紹介）

9:00~10:20: オンファームカルチャーの有効性について（日本全薬工業株式会社）

10:30~12:00: CIDRの最新研究情報（ファイザー株式会社）

13:00 開会挨拶

特別講演

13:10~15:10 「ルーメン・アシドーシス研究の最前線」 大場真人（アルバータ大）

15:10~15:30 休憩

セッション1: 乳牛の繁殖関連

15:30~16:10 繁殖成績を向上させる戦略（トータルハードマネジメントサービス、黒崎尚敏）

16:10~16:50 繁殖成績モニターの重要性（ゆうべつ牛群サービス、安富一郎）

16:40~17:20 フレッシュ期の生殖器回復に悪影響を及ぼす要因（帯広畜産大学、松井基純）

17:20~18:00 総合討論（コーディネーター：鈴木保宜）

19:30~ 懇親会

11月04日

セッション2: 栄養関連

8:00~8:40 育成牛へのTMR給与の効果（メイブルズクレストコンサルティングサービス、

武中慎治&根室農業改良普及センター北根室支所、田嶋規江）

8:40~9:20 飼料コストの低減策（メイブルズクレストコンサルティングサービス、武中慎治）

9:20~9:40 総合討論（コーディネーター：安富一郎）

9:40~10:00 休憩

セッション3: 哺育、育成関連

10:00~10:40 子牛の強化哺育について（全酪連、齋藤昭）

10:40~11:20 子牛の疾病とその対策（あかばね動物クリニック、鈴木保宜）

11:20~11:40 総合討論（コーディネーター：黒崎尚敏）

11:40~ 昼食

セッション4: 疾病関連

13:00~13:40 感染症のコントロールについて（ゆうべつ牛群サービス、安富一郎）

13:40~14:20 乳房炎のコントロールについて（あかばね動物クリニック、鈴木保宜）

14:20~15:00 乾乳牛飼料の重要性（トータルハードマネジメントサービス、黒崎尚敏）

15:00~15:30 総合討論（コーディネーター：松井基純）

3:30 閉会挨拶